

2025 年 12 月 20 日

岩手県宮古市の夜間連系太陽光発電所が竣工

日本国土開発株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長 林伊佐雄)、宮古市が出資する「田老発電合同会社」を事業主体とする「夜間連系太陽光発電所」の竣工式を執り行いました。

宮古市は「宮古市2050年ゼロカーボンシティ」を表明し、省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの導入促進により2050年までにCO2の排出を実質ゼロにする取り組みを進めており、2022年11月に「脱炭素先行地域」に選定されています。

当社は、この「宮古市脱炭素先行地域づくり事業」の一環として、「夜間連系太陽光発電所」事業を推進しており、このたび竣工に至りました。「夜間連系太陽光発電所」の建設は、2015年に宮古市内で運転を開始した田老太陽光発電所の隣に新たに太陽光発電所と蓄電池を設置するものです。これにより、系統を有効活用でき、さらに夜間も電力を供給できるようになります。

また、市民参加型の事業とするため、市民ファンドも募集開始予定です。



既設の田老太陽光発電所（左）と増設した夜間連系太陽光発電所（右上）

■田老太陽光発電所の概要

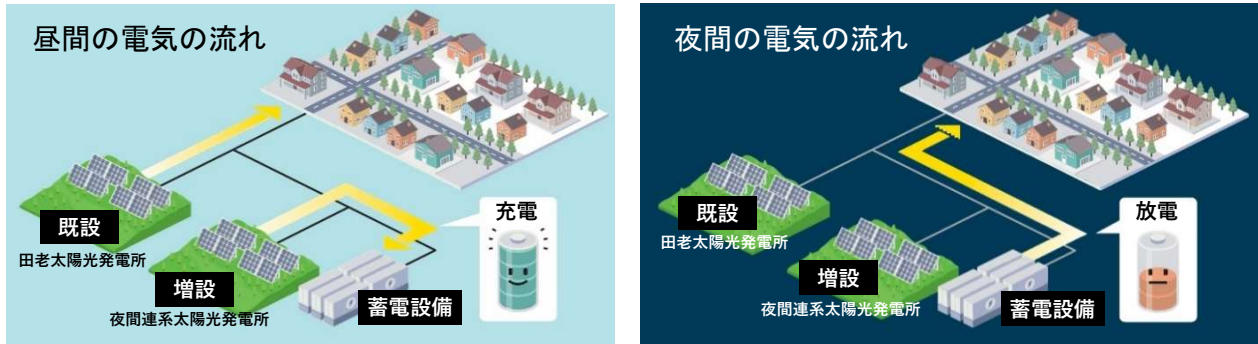
事業主 宮古発電合同会社
出資者 日本国土開発(株)、宮古市、
アジア航測(株)、復建調査設計(株)
事業地 岩手県宮古市田老字向山13番1
事業開始 2015年10月
パネル容量 2,356 kW
一般世帯換算 670世帯

■夜間連系太陽光発電所の概要

事業主 田老発電合同会社
出資者 日本国土開発(株)、宮古市
事業地 岩手県宮古市田老字向山13番1
事業開始 2025年12月
パネル容量 2,969 kW
蓄電池容量 7,987 kWh
一般世帯換算 623世帯

◆夜間連系太陽光発電所について

夜間連系太陽光発電所は、昼間に発電した電気を蓄電設備にて充電し、夕方から夜間にかけて放電を行うことによって、昼夜を問わず安定的な電力供給を目指すものです。



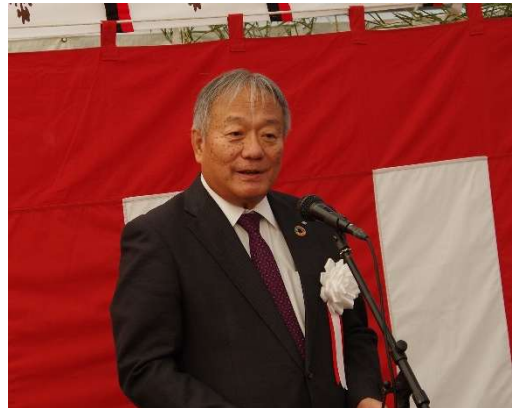
※発電量の少ない朝方などや蓄電池が満充電された際は、直接系統に電力を供給します。

<主要機器・機材について>

太陽光パネル：シャープ(株)製、PCS：富士電機(株)製、杭・架台：(株)カケフ住建製、蓄電池：TDK(株)製

◆竣工式の模様

竣工式には宮古市の中村尚道市長をはじめ、関係者約60名が出席されました。



竣工式の模様（右画像は挨拶をする日本国土開発の林伊佐雄社長

◆当社代表取締役社長 林伊佐雄のコメント

2022年11月に宮古市様が環境省様より2回目の脱炭素先行地域に選定されました。「夜間連系太陽光発電事業」は、脱炭素先行地域づくり事業の中核をなすプロジェクトです。既存の田老太陽光発電所を増設し、大規模蓄電池を併設することで昼夜を問わず安定した電力供給を実現し、系統制約下における再生可能エネルギーの最大活用を可能にするものです。このたびの夜間連系太陽光発電所の竣工により、宮古市様が掲げられている電力地産地消の取り組みが進展するとともに、脱炭素社会の実現に寄与するものと考えています。

この件に関するお問い合わせ先

日本国土開発株式会社 サステナビリティ経営本部戦略部 電話: 050-1735-9468 FAX: 03-5422-1363